

## ヤマトシステム開発株式会社 様



ヤマトシステム開発(株)  
インフラ技術本部  
ICT基盤運用品質グループ  
横田 誠一 氏

## NIRVANA-Rの導入により、データセンターの構築から運用監視、監視までの「見える化」を実現！

### 課題

#### データセンターの設備・機能の可視化

ヤマトシステム開発(株)でデータセンターの構築、運用監視、監視を行っているインフラ技術本部では、顧客から安心して運用をお任せいただくため、次の3点の設備及び機能をメリット(強み)として認識し訴求していた。

- ① 設備の安心、安全面
- ② 運用力
- ③ セキュリティ(システム、その他)

それをアピールするために、これまでもデータセンター監視ルームの見学会の実施、実際のデモンストレーションなどを行っていた。その後、より効果的にメリットを訴求するための方法を検討したが、自社の目的に合ったサービスがなかなか見つからなかった。また、すでに利用中の次世代ファイアウォールとSIEMとの連携による検証も行ったが、外部からの攻撃の可視化とリアルタイム性において、目的に合う結果を得る事ができなかった。

### ツールの選定理由

#### 3Dアニメーションによる多彩な『見える化』

このような状況の中で、NIRVANA-Rは導入の約半年前から検討を開始した。NIRVANA-Rは、セキュリティインシデント発生時のリアルタイム警告表示、ネットワークトラフィック(通信状況)のリアルタイムの可視化に特化していると同時に、3Dアニメーションにより多彩な表現が可能。約一カ月間、実機による検証を行った結果、顧客にネットワークの運用とセキュリティについて理解してもらうための『見える化』の製品としてNIRVANA-Rが最適と判断し、導入に至った。



## 効果

### 顧客の信頼感の醸成

今回のNIRVANA-Rの導入目的は、顧客に対してメリットを「見せる」ことであり、導入効果として定量的な数値を出す事は難しいが、顧客からの信頼向上には効果があると考えている。また、当社では見学会をほぼ毎日実施しており（20社/月）、デモンストレーションは月1回の頻度で実施している。実際にデータセンターを見学した顧客が、NIRVANA-Rに興味を持ち問い合わせを行ったこともある。



## 今後の展望

### 教育ツール活用と検証利用

今後の展望として以下2点を考えている。

- ① 社員向けのネットワーク教育のツールとして利用
- ② 障害対応での検証利用（pcapファイルを読み込ませる）

当社では現在、外部（インターネット）との通信について可視化を行っており、WAF、SIEM、FWで検知した攻撃の可視化を実現している。将来的にはセキュリティインシデントの可視化を進め、さらには自動防御による遮断なども視覚的に確認できるようにしていきたい。

また、今後のNIRVANA-Rの機能としては、グローバルIPのマッピングの簡易化、Wiresharkとの連携などに期待している。

#### □お客様プロフィール

ヤマトシステム開発(株)は創業以来40年以上にわたって宅急便システムの開発・運用を担い、ヤマトグループの情報システムを支え続けてきました。

さらに、培ったノウハウとネットワークインフラを最大限に活かし、さまざまな業種のお客様に対してICTを切り口とした業務効率化ソリューションを提供するビジネスを展開しています。



#### □開発・販売元

日本ラッド株式会社

IoTソリューション事業部 IoTソリューション部

TEL 03-5574-7806

Mail [nirvana@nippon-rad.co.jp](mailto:nirvana@nippon-rad.co.jp)

